

	プレ評価		ポスト評価		t	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
対家族得点						
合計得点	23.13	3.80	27.75	4.43	-6.13	***
基礎態度得点	9.63	1.30	10.88	1.46	-5.00	**
ソーシャル場面得点	13.50	2.73	16.88	3.14	-5.40	**
対他者特典						
合計得点	19.13	3.64	25.75	4.50	-6.02	***
基礎態度得点	8.13	1.73	9.88	1.64	-7.00	***
ソーシャル場面得点	11.00	2.20	15.88	3.27	-4.92	**
** $p < .01$, *** $p < .001$						

	プレ評価		ポスト評価		1ヶ月後評価		F	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
スタッフ								
合計得点	20.80	5.89	23.40	4.45	25.00	1.87	3.57	†
基礎態度得点	12.00	2.74	12.40	2.30	12.80	1.10	0.615	
ソーシャル場面得点	8.80	3.83	11.00	2.24	12.20	1.10	5.186*	プレ<ポスト プレ<1ヶ月後
自己記述								
合計得点	22.80	6.72	28.60	5.55	30.20	4.44	9.93	** プレ<1ヶ月後
基礎態度得点	12.40	4.56	15.60	4.39	16.20	4.44	5.40	†
ソーシャル場面得点	10.40	3.85	13.00	2.00	14.00	2.00	3.622	†
† $p < .10$, * $p < .05$, ** $p < .01$								

	プレ評価		ポスト評価		t	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
対家族得点						
合計得点	22.60	4.56	26.60	5.46	-7.30	**
基礎態度得点	9.20	1.48	10.20	1.48	-3.16	
ソーシャル場面得点	13.40	3.29	16.40	4.04	-5.48	**
対他者特典						
合計得点	17.40	2.30	24.20	5.22	-4.65	**
基礎態度得点	7.00	0.71	9.00	1.22	-6.32	**
ソーシャル場面得点	10.40	1.67	15.20	4.09	-4.00	*
* $p < .05$, ** $p < .01$						

	プレ評価		ポスト評価		1ヶ月後評価		F	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
スタッフ								
合計得点	27.33	6.43	29.33	2.52	27.67	5.13	0.697	
基礎態度得点	14.33	2.89	14.67	1.15	13.67	3.21	0.73	
ソーシャル場面得点	13.00	3.61	14.67	1.53	14.00	2.00	1.652	
自己記述								
合計得点	39.00	1.00	40.00	0.00	39.00	1.00	3.00	
基礎態度得点	23.33	0.58	24.00	0.00	23.67	0.58	2.00	
ソーシャル場面得点	15.67	0.58	16.00	0.00	15.33	1.15	1	

表9 中学生グループにおける母親評価の結果						
	プレ評価		ポスト評価		t	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
対家族得点						
合計得点	24.00	2.65	29.67	0.58	-3.05	†
基礎態度得点	10.33	0.58	12.00	0.00	-5.00	*
ソーシャル場面得点	13.67	2.08	17.67	0.58	-2.62	
対他者特典						
合計得点	22.00	4.00	28.33	0.58	-3.12	†
基礎態度得点	10.00	1.00	11.33	1.15	-4.00	†
ソーシャル場面得点	12.00	3.00	17.00	1.00	-2.40	
† $p < .10$, * $p < .05$						

（主任研究者 奥山眞紀子）

分担研究報告書

教育現場で可能な発達障害の評価法および治療法の開発

分担研究者 井上 雅彦 鳥取大学大学院 医学系研究科 教授
古谷 奈央 茨木市保健医療課

研究要旨

本研究では通常学級教師を対象にした行動問題に対応力を高める効果的なトレーニングプログラムの開発を目的とし、地域的制限のないインターネットを利用したe-learningによる研修とコンサルテーションの効果を検証しようとするものである。本研究では教師を対象にした問題行動に関するe-learningによる研修プログラムを開発しその効果を検討した。結果、事前・事後評価の結果、KBPAC、効力感尺度およびCBCLの得点の改善がみとめられた。

近年、問題行動に対しては機能的アセスメントに基づく介入が高い効果を示すことが、多くの研究から検証されている（梶・藤田, 2006；興津・関戸, 2007；野口・野呂, 2006；大久保・福永他, 2007；佐竹, 2001）。しかしこれらのアプローチを遂行するためにはいずれも専門家（大学院生や大学教員）による長期間のコンサルテーションが必要であった。例えば、梶・藤田(2006)では、特別支援学校の教師であり大学院修士課程で障害児教育を専攻し、学校心理士と臨床発達心理士の資格を有する第1筆者が6ヶ月間、計14回のコンサルテーションを行っている。また、興津・関戸(2007)では、特別支援学校の教師であり長期研修生として大学院で特別支援教育について学んでいる第1筆者が週1回アシスタントティーチャーとして10ヶ月間学校を訪問している。野口・野呂(2006)では、大学院の修

了生であり研究員を行っている第1筆者が週1回のコンサルテーションを14週間行っている。しかし、現在の日本の状況では、支援が必要な全ての小学校に専門家が長期間コンサルテーションなどの介入をすることは、経済的な要因による専門家の不足など様々な理由から大変難しい。

そこで本研究では学校教育場面で教師が研修し、実施可能なインターネットを利用した支援システムを開発し、その効果を検討することを目的とする。

A. 目的

学校場面で児童生徒が示す問題行動に対するWEB上でのe-learning研修における講義コンテンツの効果を一般の小中学校の通常学級担任を対象に検証し分析した。

B. 対象と方法

1) 期間

200X年9月中旬から11月中旬の間、A研究室のホームページで受講者を募集した。また、実際の研修期間は200X年9月中旬から11月下旬の間であった。

2) 対象者

現在担任する学級に、障害がある、あるいはそれが疑われる児童生徒が在籍する通常学級の担任教員とした。また本研究に対するインフォームド・コンセントをWEB上で行い、受講者のうち同意を得られた教員を対象とした。その結果、e-learning研修への申込者（介入群）は9名であった。本研究では個人情報保護のために、募集の段階で本名ではなく、ハンドルネームでの申し込みを採用した。また、それとは別にe-learning研修には参加せず、アンケートのみに参加した統制群は7名であった（Table 1）。

Table 1 参加者のプロフィール

介入群	年齢	性別	年数	統制群	年齢	性別	年数
1	40代	男	24年	1	30代	女	16年
2	40代	女	4年	2	40代	女	20年
3	30代	女	7年	3	30代	男	14年
4	30代	女	16年	4	30代	男	15年
5	40代	女	15年	5	50代	女	29年
6	40代	男	27年	6	40代	男	24年
7	40代	男	20年	7	40代	女	23年
8	40代	男	19年				
9	50代	男	28年				

3) 研修プログラムの内容

(1) ホームページ：オリジナルのホームページを作成した（Fig.1）。ホームページはA研究室のホームページにリンクを張り、オンライン上でどこからでもアクセスができるものであった。

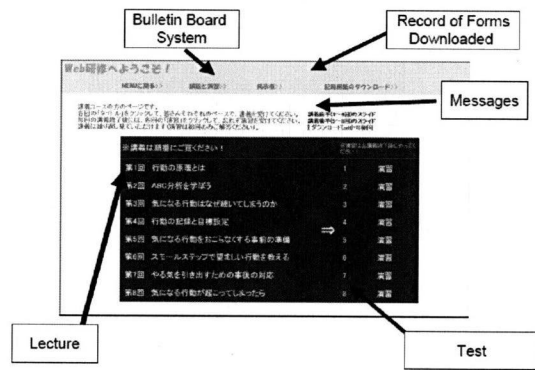


Fig.1 HP上のコンテンツ

(2) e-learning コンテンツ：講義は全8回のシリーズ形式になっており、問題行動への対応についての基本的な内容の講義であった。この講義の内容は高木（2007）を参考に筆者と応用行動分析の専門家の二人で協議して決定した。本研究では南田（2005）及び高木（2007）では取り扱わなかった行動の原理についての講義を新しく取り入れた。講義時間は、各回15分前後とし、スライドに併せて応用行動分析の専門家のビデオ講義が見られるように編集した（Table 2）。

Table 2 各講義の題名と配信時間

	コンテンツ名	配信時間
第1回	行動の原理とは	9分22秒
第2回	ABC機能分析を学ぼう	20分14秒
第3回	気になる行動はなぜ続いてしまうのか	15分17秒
第4回	行動の記録と目標設定	14分20秒
第5回	気になる行動をおこらなくする事前の準備	19分5秒
第6回	スモールステップで望ましい行動を教える	12分39秒
第7回	やる気を引き出すための事後の対応	11分24秒
第8回	気になる行動が起きてしまったら	6分48秒

4) 評価

介入による効果を検証するために、KBPA、CBCL、小学校教師版自己効力感尺度（松尾・清水，2007）、新版STAIを介入の前後で測定した。統制群には一定の期間において二度同様の評価に回答させた。また

事後の評価測定時に、講義の内容を実際に実践したか、その実践は上手くいったかの2点についても回答を求めた。

C. 結果

本抄録では小学校教師版自己効力感尺度及びCBCLの結果について取り上げる。Fig. 2は、小学校教師版自己効力感尺度の得点について群別に示したものである。縦軸は得点、横軸は事前事後を表している。介入群における得点が、統制群に比べて、事前と事後で大きく異なることがわかった。統制群については、事前と事後で変化が見られなかった。Fig. 3は、CBCLの得点について群別に示したものである。縦軸は得点、横軸は事前事後を表している。介入群における得点が、統制群に比べて高く、また事前と事後で得点が大きく減少していることがわかった。また、介入群9名中8名が講義受講後に実際に実践を行ったと報告し、その中の7名が上手くいったまたは少し上手くいったと回答した(Fig. 4)。

D. 考察

本研究の結果、小学校教師版自己効力感尺度の得点は介入群においてのみ大きく上昇していた。これは本研究による研修を受講したことによる効果だと考えられる。また、CBCLの得点においても介入群において顕著な減少が見られ、研修の効果が示唆された。また、講義終了後に実際の場面において実践したという報告も多くされており、これからも本研究の研修が意義のあるものであったと考えられる。本研究では途中での辞退者はおらず、現職の教員にも負担が大き過ぎず、参加しやすい研修であったことが示唆された。

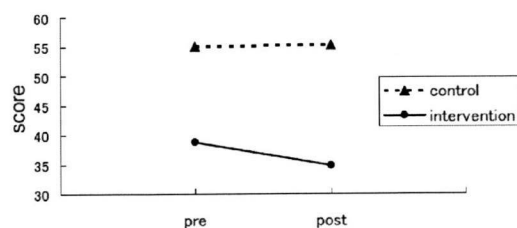


Fig. 2 小学校教師版自己効力感尺度の得点

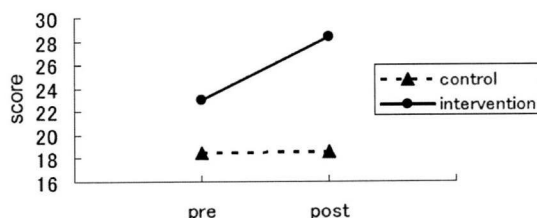


Fig. 3 CBCLの得点変化

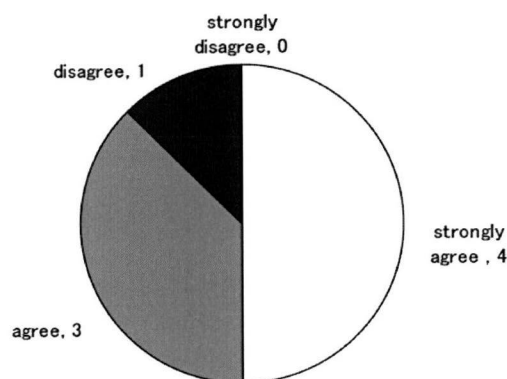


Fig. 4 実践の効果について

E. 結論

e-learningによる問題行動を対象にした機能分析による研修プログラムの特徴・効果として以下の点を確認できた。

1. 既存の研修に比してドロップアウトが少ない
2. 実際の支援の実行度が高い
3. 教師の自己効力感の上昇、不安尺度などの心理的側面での効果
4. CBCLによる子どもの行動面の改善

F. 健康危険情報

該当無し。

G. 研究発表

研究論文

1) 井上雅彦 2009 自閉症に対するエビデンスに基づく実践を我が国に定着させるための戦略 行動分析学研究 23, 2, 49-59
学会発表

1) MASAHIKO INOUE (2009) The effects of the teacher training program for special education. Association for Behavior Analysis International 5th International Conference Association for Behavior Analysis

2.) 井上雅彦ら 2009 行動問題に対する教育現場での効果的技法に関する文献研究 I 日本特殊教育学会第 47 回発表論文集

3.) 石原広保・井上雅彦・佐々木和義 2009 問題行動に対する「チェック式機能分析シート」の小学校授業場面での効果の測定 日本行動療法学会第 35 回発表論文集

4) 古谷奈央・井上雅彦 2009 通常学級の担任に対する e-learning 研修の効果 日本行動療法学会第 35 回発表論文集

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	ページ	出版年
奥山眞紀子		奥山眞紀子 氏家 武 井上登生	子どもの心の診療 医になるために	南山堂	東京	全 280	2009
神尾陽子	第4章 ライフ サイクルと社会 精神医学 第 2節 乳幼児期	日本社会精 神医学会編	社会精神医学	医学書院	東京	144-149	2009
井上祐紀 稲垣真澄 <u>神尾陽子</u>	ADHD, 広汎性 発達障害と注 意障害. 注意 障害.	加藤元一郎 鹿島晴雄編	専門医のための精 神科臨床リュミ ール 10	中山書店	東京	164-172	2009
神尾陽子	成因: 神経心理 学的観点から.	市川宏伸 鈴木俊介編	日常診療で出会う 発達障害のみかた	中外医学社	東京	35-42	2009
稲田尚子 <u>神尾陽子</u>	幼児期早期の アスペルガー 症候群: ASD 児 に対する早期 からのアセス メントと支援.	榊原洋一編 著	アスペルガー症候 群の子どもの発達 理解と発達援助. 別冊発達 30	ミネルヴァ 書房	京都	113-122	2009
<u>神尾陽子</u> 小山智典	自閉症の早期 発見.	高木隆郎編	自閉症: 幼児期精 神病から発達障害 へ	星和書店	東京	35-48	2009
神尾陽子	自閉症の成り 立ち: 発達認知 神経科学的研 究からの再考	高木隆郎編	自閉症: 幼児期精 神病から発達障害 へ	星和書店	東京	87-100	2009
神尾陽子	自閉症研究: 今 後の課題.	高木隆郎編	自閉症: 幼児期精 神病から発達障害 へ	星和書店	東京	263-266	2009
神尾陽子	自閉症スペク トラムの発達 認知神経科学	東條吉邦 大六一志 丹野義彦編	発達障害の臨床心 理学	東京大学出 版会	東京	17-33	2009
<u>Kamio Y,</u> Tobimatsu S, Fukui H,	Developmental disorders.	In J. Decety, J. Cacioppo (eds.)	The Handbook of Social Neuroscience	Oxford University Press	Oxford	in press	2009

杉山登志郎		杉山登志郎 岡南 小倉正義	ギフトド 天才 の育て方	学研教育出版	東京	全 189	2009
杉山登志郎		杉山登志郎	講座 子どもの診 療科	講談社	東京	全 230	2009
杉山登志郎		杉山登志郎	そだちの臨床 発 達精神病理学の新 地平	日本評論社	東京	全 259	2009
山下裕史朗	地域での発達 支援ネットワ ーク構築	山下由紀恵 三島みどり 名和田清子 編	「子育て支援」の 新たな職能を学ぶ	ミネルヴァ 書房	東京	248-254	2009
くるめSTP書 籍プロジェクト		山下裕史朗 向笠章子編	夏休みで変わる ADHD をもつこ どものための支援 プログラムーくる めサマー・トリ ートメント・プロ グラムの実際	遠見書房	東京	全 190	2009
田中康雄	注意欠如・多動 性障害	東條吉邦 大六一志 丹野義彦	発達障害の臨床心 理学	東京大学出 版	東京	87-109	2009
田中康雄	注意欠如・多動 性障害	市川宏伸 鈴木俊介	日常診療で出会う 発達障害のみかた	中外医学社	東京	89-96	2009
田中康雄	小児・青年期の 行動異常	風祭元	よくわかる精神科 薬ハンドブック	照林社	東京	183-189	2009
田中康雄	ADHD と破壊 的行動障害	本間博彰 小野善郎	子どもの攻撃性と 破壊的行動障害	中山書店	東京	65-81	2009
井上雅彦	自閉症のある 子どもの余暇 活動の支援	安達潤編著 石井哲監修	発達障害の臨床的 理解と支援-3学 齡期の理解と支援	金子書房	東京	149-158	2009
井上雅彦	自閉症スペク トラムのある 人に余暇スキ ルを教える	安達潤編著 石井哲監修	発達障害の臨床的 理解と支援-3学 齡期の理解と支援	金子書房	東京	159-165	2009
井上雅彦	自閉症児の教 育	富永光昭 平賀健太郎	特別支援教育の現 状・課題・未来	ミネルヴァ 書房	京都		2009
井上雅彦	心理教育的援 助サービス	安齊順子 荷方邦夫	使える教育心理学	北樹出版	東京		2009

雑 誌

発表者氏名	論 文 タ イ ト ル 名	発 表 誌 名	巻 名	ペ ー ジ	出 版 年
Koyama T, <u>Kamio Y</u> , Inada N, Kurita H	Sex differences in WISC-III profiles of children with high-functioning pervasive developmental disorders.	Journal of Autism and Developmental Disorders,	39	135-141	2009
Ishida R, <u>Kamio Y</u> , Nakamizo S,	Visual Illusions in Children with High-Functioning Autism Spectrum Disorders	Psychologia	52	175-187	2009
Katagiri M, Inada N, <u>Kamio Y</u> ,	Mirroring effect in 2- and 3-year-olds with autism spectrum disorder	Research in Autism Spectrum Disorders			in press
Inada N, <u>Kamio Y</u> , Koyama T,	Developmental chronology of preverbal social behaviors in infancy using the M-CHAT: Baseline for early detection of atypical social development	Research in Autism Spectrum Disorders			in press
神尾陽子	大学生の発達障害：自閉症スペクトラムを中心に	Campus Health	46	43-45	2009
<u>神尾陽子</u> 辻井弘美 稲田尚子 井口英子 黒田美保 小山智典 宇野洋太 奥寺崇 市川宏伸 高木晶子	対人応答性尺度 (Social Responsiveness Scale) 日本語版の妥当性検証：広汎性発達障害日本自閉症協会評定尺度 (PDD-Autism Society Japan Rating Scales: PARS) との比較	精神医学	51	1101-1109	2009
小山智典 稲田尚子 <u>神尾陽子</u>	ライフステージを通じた支援の重要性：長期予後に関する全国調査をもとに。	精神科治療学, 特集-発達障害者支援のこれから-自閉症とアスペルガー症候群を中心に-	24	1197-1202	2009
山崎貴男 藤田貴子 <u>神尾陽子</u> 飛松省三	自閉症スペクトラムにおける運動認知機構	臨床脳波	51	463-469	2009

神尾陽子 井口英子	発達障害者と精神科医療の役割： 最近の傾向と今後の課題	日本精神科病院協会 雑誌	28	14-20	2009
神尾陽子	自閉症概念の変遷と今日の動向	児童青年精神医学と その近接領域，学会 発足 50 周年記念特集 号	50	124-129	2009
神尾陽子	ライフステージに応じた支援の意 義と、それを阻むもの。	精神科治療学，特集- 発達障害者支援のこ れから-自閉症とアス ペルガー症候群を中 心に-	24	1191-1195	2009
神尾陽子	発達障害の診断の意義とその問題 点。	コミュニケーション 障害学	26	192-197	2009
Marui T, Funatogawa I, Koishi S, Yamamoto K, Matsumoto H, Hashimoto O, Nanba E, Nishida H, Sugiyama T, Kasai K, Watanabe K, Kano Y, Kato N	Association of the neuronal cell adhesion molecule (NRCAM) gene variants with autism	International Journal of Neuropsychopharma cology	12	1-10	2009
Marui T, Funatogawa I, Koishi S, Yamamoto K, Matsumoto H, Hashimoto O, Jinde S, Nishida H, Sugiyama T, Kasai K, Watanabe K, Kano Y, Kato N.	Association between autism and variants in the wingless-type MMTV integration site family member 2 (WNT2) gene	Int J Neuropsychopharm acol	9	1-7	2009

Kawakubo Y, Kuwabara H, Watanabe K, Minowa M, Someya T, Minowa I, Kono T, Nishida H, <u>Sugiyama T</u> , Kato N, Kasai K	Impaired prefrontal hemodynamic maturation in autism and unaffected siblings	PLoS One	4	e6881	2009
Suzuki K, Nishimura K, Sugihara G, Nakamura K, Tsuchiya KJ, Matsumoto K, Takebayashi K, Isoda H, Sakahara H, <u>Sugiyama T</u> , <u>Tsuji M</u> , Takei N, Mori N.	Metabolite alterations in the hippocampus of high-functioning adult subjects with autism	Int J Neuropsychopharmacol	9	1-6	2009
Kajizuka M, Miyachi T, Matsuzaki H, Iwata K, Shinmura C, Suzuki K, Suda S, Tsuchiya KJ, Matsumoto K, Iwata Y, Nakamura K, <u>Tsuji M</u> , <u>Sugiyama T</u> , Takei N, Mori N.	Serum levels of platelet-derived growth factor BB homodimers are increased in male children with autism	Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry	34 (1)	154-158	2010

Nakamura K, Sekine Y, Ouchi Y, <u>Tsujii M.</u> Yoshikawa E, Futatsubashi M, Tsuchiya KJ, Sugihara G, Iwata Y, Suzuki K, Matsuzaki H, Suda S, <u>Sugiyama T.</u> Takei N, Mori N	Brain serotonin and dopamine transporter bindings in adults with high-functioning autism.	Arch Gen Psychiatry	67	59-68	2010
杉山登志郎	子ども虐待への包括的ケア：医療機関を核とした子どもと親への治療	子どもの虐待とネグレクト	11 (1)	6-18	2009
杉山登志郎	成人の発達障害	そだちの科学	13	2-13	2009
杉山登志郎	子ども虐待	児童青年精神医学とその近接領域	50	161-173	2009
浦野葉子 <u>杉山登志郎</u>	小児疾患診療のための病態生理 2 第4版 VII.発達障害, 精神・心理疾患 反抗挑戦性障害、行為障害	小児内科	41 (増刊号)	797-800	2009
杉山登志郎	児童養護施設における施設内性被害の現状と課題	子どもの虐待とネグレクト	11 (2)	172-181	2009
森本武士 <u>杉山登志郎</u>	自閉性障害—小児期から成人期への臨床経過とその経年的なマネージメント	日本臨床	68(1)(通号 969)	87-91	2010
Gunji A, Inagaki M, Inoue Y, Takeshima Y, <u>Kaga M</u>	Event-related potentials of self-face recognition in children with pervasive developmental disorders	Brain Dev.	31	139-147	2009

Furushima Y, Inagaki M, Gunji A, Inoue Y, Kaga M, Mizutani S	Early signs of visual perception and evoked potentials in radiologically asymptomatic boys with X-linked adrenoleukodystrophy	J Child Neurol	24	927-935	2009
Kaga M, Furushima W, Inagaki M, Nakamura M	Early neuropsychological signs of childhood adrenoleukodystrophy (ALD)	Brain Dev.	31	558-561	2009
井上祐紀 稲垣真澄	誘発電位の再評価(2): 発達障害児における聴性脳幹反応(ABR)の知見を中心に	臨床脳波	52	109-113	2010
Yamashita Y, Mukasa A, Honda Y, Anai C, Kunisaki C, Koutaki J, Motoyama S, Miura N, Sugimoto A, Ohya T, Nagamitsu S, Gnagy EM, Greiner AR, Pelham WE, Matsuishi T	Short-term effect of American summer treatment program for Japanese children with attention deficit hyperactivity disorder	Brain Dev	32	115-122	2010
Iizuka C, Yamashita Y, Nagamitsu S, Yamashita T, Araki Y, Ohya T, Hara M, Shibuya I, Kakuma T, Matsuishi T	Comparison of the strengths questionnaire(SDQ) scores between children with high-functioning autism spectrum disorder(HFASD) and attention-deficit /hyperactivity disorder(AD/HD)	Brain Dev	In press		

山下裕史朗 向笠章子 松石豊次郎	ADHD の Summer Treatment Program : 日本における 3 年間の実践	行動分析学研究	23(1)	75-81	2009
江上千代美 森田喜一郎 石井洋平 山下裕史朗 松石豊次郎	笑顔図の探索眼球運動から類推される対人性視覚認知機能の発達	脳と発達	印刷中		
江上千代美 森田喜一郎 石井洋平 大矢崇志 山下裕史朗 松石豊次郎	アスペルガー障害児と健常児における探索眼球運動の比較検討	臨床神経生理学	印刷中		
田中康雄	治療者と患者の関係	臨床心理学増刊	1	90-95	2009
田中康雄	AD/HD 50 年の流れと将来の展望	児童青年精神医学とその近接領域	50	137-144	2009
田中康雄	ADHD ってなに? LD ってなに?	こころの科学	145	12-16	2009
田中康雄	紡いでゆく連携 ネットワーキングからネットワークへ	こころの科学	145	55-58	2009
Miyahara M, Ruffman T, Fujita C, Tsuji M,	How Well Can Young People with Asperger's Disorder Recognize Threat and Learn about Affect in Faces? : A Pilot Study	Research in Autism Spectrum Disorders	4(2)	242-248	2010

<p>Fujita-Shimizu A, Suzuki K, Nakamura K, Miyachi T, Matsuzaki H, Kajizuka M, Shimura C, Iwata Y, Suda S, Tsuchiya KJ, Matsumoto K, Sugihara G, Iwata K, Yamamoto S, <u>Tsujii M</u>, <u>Sugiyama T</u>, Takei N, Mori N.</p>	<p>Decreased serum levels of adiponectin in subjects with autism</p>	<p>Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry</p>			<p>2010</p>
<p>Maekawa M, Iwayama Y, Arai R, Nakamura K, Ohnishi T, Toyota T, <u>Tsujii M</u>, Okazaki Y, Osumi N, Owada Y, Mori N, Yoshikawa T</p>	<p>Polymorphism screening of brain-expressed FABP7, 5and3 genes and association studies in autism and schizophrenia in Japanese subjects.</p>	<p>J Hum Genet</p>	<p>55(2)</p>	<p>127-130</p>	<p>2010</p>

Maekawa M, Iwayama Y, Nakamura K, Sato M, Toyota T, Ohnishi T, Yamada K, Miyachi T, <u>Tsuji M</u> , Hattori E, Maekawa N, Osumi N, Mori N, Yoshikawa T.	A novel missense mutation(Leu46Val)of PAX6 found in an autistic patient	Neurosci Lett	462(3)	267-271	2009
満田健人 明翫光直 <u>辻井正次</u>	PFスタディ反応における広汎性発 達障害児と定型発達児の比較研究	小児の精神と神経	49 (3)	221-230	2009
<u>辻井正次</u> 伊藤沙智子	支援システム・支援グループ ――NPO 法人アスペ・エルデの会 の取り組みから（アスペルガー症 候群の子どもの発達理解と援助） ――（アスペルガー症候群の援助）	別冊発達	30	281-288	2009
川上ちひろ <u>辻井正次</u>	思春期広汎性発達障害児の性行動 の特徴と保護者のニーズの検討	小児の精神と神経	49 (2)	163-170	2009
小泉晋一 <u>辻井正次</u>	II各論 21) 自閉障害 4.自閉症スペ クトラム障害の人に対する家族の 接し方と対応	精神科治療学―精神 療法・心理社会療法ガ イドライン―	24 (増刊 号)	310-311	2009
吉橋由香 藤田知加子 川上正浩 <u>辻井正次</u>	高機能広汎性発達障害の意味的ネ ットワーク構造の特徴―言語連想 課題を用いた検討	小児の精神と神経	49 (2)	149-161	2009
<u>辻井正次</u>	発達障害のある子どもたちの家庭 と学校 (1) 発達障害があるとい うこと	子どもの心と学校臨 床	1		2009
<u>辻井正次</u>	発達障害のある子どもたちの家庭 と学校 (2) 発達障害が理解され ないことで困ること	子どもの心と学校臨 床	2	89-96	2010
<u>辻井正次</u>	学校における発達障害のある子 どもたちのための「当り前の」サ ポート作戦	子どもの心と学校臨 床	2	2-9	2010

辻井正次	子どもたちの「できること」を伸ばす-発達障害のある子どものスキル・トレーニング実践(新連載1) (1) 発達障害と共に生きること-スキル・トレーニングが必要なわけ	こころの科学	146	97-101	2009
辻井正次	子どもたちの「できること」を伸ばす-発達障害のある子どものスキル・トレーニング実践(2) 日常で困ることの分析と準備-子どもたちが困ったときに前向きになるために	こころの科学	147	115-121	2009
小泉晋一 辻井正次	子どもたちの「できること」を伸ばす-発達障害のある子どものスキル・トレーニング実践(3) 子どもたちが身体を知る	こころの科学	148	139-144	2009
林陽子 辻井正次	子どもたちの「できること」を伸ばす-発達障害のある子どものスキル・トレーニング実践(4) 自分の気持ちを知る-感情理解スキルの基礎	こころの科学	149	136-141	2010
大隈香苗 辻井正次	子どもたちの「できること」を伸ばす-発達障害のある子どものスキル・トレーニング実践(5) 困ったときにどうしたらいいかを知る-助けを呼ぶスキル	こころの科学	150	152-158	2010
田倉さやか 辻井正次	自閉症スペクトラムの概念と発達支援	作業療法ジャーナル	44 (3)	186-191	2010
辻井正次	通常学級で使える特別支援教育実践のコツ 特別支援教育で始まる、子どもの<苦手>を<得意>にする工夫の仕方 -通常学級にあたり前に発達障害の子どもたちが学んでいる現実の中で	児童心理	63 (18)	1-10	2009
井上雅彦	自閉症に対するエビデンスに基づく実践を我が国に定着させるための戦略	行動分析学研究	23 (2)	173-183	2009

井上雅彦	自閉症における応用行動分析学からのアプローチとそのエビデンス 精神療法・心理社会療法ガイドライン	精神科治療学	24 (増刊号)	306-307	2009
井上雅彦 大羽沢子 猪子秀太郎 梅川康治 真城知己	特別支援教育のための応用行動分析学の適用：子どもと教師が変わる効果的な研修プログラム (準備委員会企画シンポジウム 5、日本特殊教育学会第 46 回大会シンポジウム報告)	特殊教育学研究	46 (5)	346-347	2009
井上雅彦	発達障害のある子どもが集団のルールで動けるために	児童心理	63 (18)	100~105	2009
井上雅彦	広汎性発達障害のある子どもの感情理解と表現への支援	児童心理	63 (7)	663-667	2009
井上暁子 井上雅彦	強いこだわりを持つ自閉症生徒に対するセルフマネジメント手続きを利用したカウンセリング	明和学園短期大学紀要	18	69-76	2009
渡部匡隆 岡村章司 安達潤 井上雅彦 衛藤裕司 小林重雄	広汎性発達障害の治療教育プログラムの展開 (2) : 社会性の障害とその支援を中心に (自主シンポジウム 15、日本特殊教育学会第 46 回大会シンポジウム報告)	特殊教育学研究	46 (5)	346-347	2009

